

赤嶺謙二



神楽会館建設
に関して

質問

神楽会館建設審議会の設置も開催も聞いていない、議会にも説明していないこの時期に、なぜ新聞報道されたのか。

答弁 企画部長

6月末までに審議会を設置し、開催する予定です。

神楽会館については、平成16年3月に「清川村ふれあい交流拠点・神楽会館基本構想」を策定している。

新市となり、この構想をベースに今後、規模や予算について審議されるものであり、旧清川村の構想が決定されているものではない。

図書館事業を問う

質問

市民の書齋として、生涯学習の拠点施設として、現在の事業展開・活動は。

答弁 教育長

現在、中央図書館6万5千冊、緒方図書館1万8千冊を所有。

年間入館者4万7千人、利用者3万人で、貸出冊数は9万5千冊を超えています。

館外事業として、移動図書館車を使い、市内の小学



▲よい子の皆さん、本をたくさん読んでね

校・幼稚園に月1回の巡回を実施しています。

ゴミの持ち込み
(清掃センター)

質問

利用者ニーズとして、昼休みの休憩時間(12時~13時)も取り扱ってとの声がある。改善はできないか。

答弁 生活環境部長

職員やシルバー人材センターの方と、安全確保や休憩時間の変更ができるか検討したい。

三浦正吉



バス路線が
消えそう

質問

三重く白杵間JR定期バスの来年4月廃止が発表された。

高齢者の足の確保、高校生40名のバス通学など、この白三線廃止は、住民生活に大きな影響を及ぼす。

経緯と状況を伺いたい。

答弁 市長

路線の廃止は、重要な問題であると認識し、2月8日にJR九州バス本社に存続についての要望を行いました。

しかし、JR側

は、3月17日に大分県バス対策協議会に路線退出の申し出をしています。

市は、運行維持を要望する陳述を大分県バス対策協議会幹事会に対し行いました。

質問

市の未来を展望した時、公共交通の撤退は活力を失うこととなる。存続に向けた行動を起こすべきと考えるが対策は。

答弁 企画部長

公共交通は、必要であるとの認識で、白三線路線バスの存続に努力をしています。

ただ、JR九州バスの撤退の意思は固いものがあります。

答弁 市長

今後は、代替案の検討も含め、存続に対する具体的な対応を、白杵市と連携しながら県と共に進めたいと考えています。



▲JRの赤いバスと女子高生(三重高校前バス停)